

間伐体験で森林 保護意識を共有

スペース

スペース（東京都、佐々木靖浩社長）は8月29日、筑波山（茨城県石岡市）で「森林保護体験プログラム」を実施した。

同プログラムは、同社が企画・デザイン・施工を手掛けるTX八潮駅高架下商業施設「TXアベニュー八潮」のリニューアルに伴い同社が企画したものの。TXアベニュー八潮で天井装飾やベンチなどに使用する間伐材の伐採体験を通じ、間伐による森林保護や地産材利用によるウッドマイレージ削減などの環境負荷低減の重要性を関係者間で再認識することが狙い。

間伐材の伐採を体験した



同プログラムには、同社のほか、事業主である首都圏新都市鉄道、木材販売を手掛ける森未来、間伐材を供給するつくばね森林組合から約20人が参加。

当日は、つくばね森林組合が維持・管理する森林から30年生の杉1本を伐採した。

TXアベニュー八潮のリニューアルでは、杉20〜30本を施設天井装飾（6×20材）やベンチなどに使う予定。